

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和6年2月8日

公表:令和6年3月22日

事業所名 田原市児童発達支援センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	0		
	2 職員の配置数は適切である	14	0		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの実態に合わせて活動の流れの絵カードを作成したり、配置を考え直すなどして、よりわかりやすい構造化を目指して努力している。</li> <li>個人ロッカー内につずつ所持品のマークを表示したことで、子どもが見てわかり、子どもの自発的行動につながった。</li> <li>前に立つ支援者の動きが最小限になるように工夫をし、子ども達が集中して注目できるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー化・ユニバーサルトイレなど今後も計画的に施設の充実を図っていきます。</li> <li>子ども達が自分でできる力を身につけるために、自発的行動につなげるための環境・構造化を考えていきます。</li> </ul>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に合わせてパーテーションの位置を変えたりして、子どもたちが注目しやすい空間づくりに努めた。</li> <li>衣服の着脱時、トイレの排泄時には、プライバシーを守るために廊下でも使用できるようなパーテーションの作成をした。</li> <li>部屋の窓からの視覚刺激を軽減するためのフィルムを貼った。</li> <li>気候に合わせて空調を使用し、調整した。</li> <li>活動内容に応じて椅子の設置位置と支援者が経つ位置の距離を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候に合わせて空調を使用し、調整していますが、廊下とは温度差があります。今後、改善できる工夫を検討していきます。</li> </ul>
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定を明確にして、職員全体でカンファレンスなどを通し、振り返りが行えるようにしている。</li> <li>チームカンファレンスの充実を計り、振り返りを行えるようにした。(職員の休み等で行えなかったら、別日に設けるなど)</li> </ul>	各クラス単位で振り返りを行っていますが、全体でも振り返りを行えるように、朝礼・夕礼を上手く活用しすべての職員が振り返りに参画できるように引き続き行っています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	0	昨年度の評価をふまえて、保護者と子どもが離れ、保護者同志でリフレッシュできる時間を設けた。	今後も自己評価をもとに改善できるところは改善する努力を継続していきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	14		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター内では虐待防止、スーパーヴィジョン等を計画的に研修を行い、質の向上につなげた。また、他の事業所に見学研修や実務研修に行き、子ども達と実際に関わらせてもらったりして参加し、実践につなげた。</li> </ul>	どの職員に対しても公平に研修を受けられる環境と機会を提供してきました。勤務時間内に研修を受けられるようさらに検討していきます。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメントを丁寧に行い、保護者の想いを受け止めながら、子どもの発達段階をふまえ児童発達支援計画を作成した。</li> </ul>	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	0		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>併用している園との連携や就学に伴う保護者の相談など子どもがよりよく過ごせるように支援を行う内容を設定した。</li> </ul>	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画に基づいて支援している。支援方法について保護者とその都度相談しながら、同じ方向性ですすめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画に沿った支援を行っていますが、保護者や利用者にもわかりやすいようにその都度計画の内容について知らせていきます。</li> </ul>
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	13	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各チームカンファレンス、リーダーカンファレンス、全体カンファレンスで活動について話し合い、一人一人にあったねらいを持って取り組めるようにした。</li> <li>チームカンファレンスによって、子に合わせた内容取り組みをしている。親子と単独チーム同志の連携も図れているが、個々に応じた発達の促しについて細かく遊びの内容を連携したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>午後の活動プログラムの目的をより明確にし、活動内容を全職員で検討し、工夫していきます。</li> </ul>
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに合わせて活動への取り組み方法を変えたりして、ねらいをもって工夫している。</li> <li>子どもの様子に合わせて、内容によっては連続した活動を取り入れることもある。マンネリ化せずにステップアップした、内容になっている。季節に応じた行事も取り入れ、保護者にも楽しめる活動にも心がけている。</li> <li>支援者同士で話し合い子どもが充実して過ごせるように様々な遊びを提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>午後の活動プログラムが固定化しないように反省を踏まえて内容を変更しています。活動プログラムのポイントをその都度保護者や利用者へ伝えていきます。また、他事業所の取り組みも参考にしながら新しい活動プログラムや内容を検討していきます。</li> </ul>

関係機関や保護者との連携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	0	・支援の内容や活動の準備については、当日までに支援者同士話し合っている。また、毎朝、職員全体でカンファレンスを行い、その日のスケジュールや活動内容を確認し、その後のチームでの支援内容等細かい部分を再度確認している。	・活動のすり合わせ等をより丁寧に行い、それぞれが自身の役割を意識し、行動できるように今後も努力していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	0	・毎日、支援終了後に振り返りを行い、改善点も含め次の支援の仕方、より良い支援について検討を重ねている。 ・親子通園・単独通園でのそれぞれの子どもの姿の確認を職員全員で行い、全利用者の姿について共通理解をし、気づいた点を確認し、次の支援方法の改善につなげている。	・単独通園のスタッフと親子通園のスタッフ及びクラス担任同士が、より連携がとれるように情報共有の時間を確保していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	0	・日々の支援の記録をしながら活動の振り返り、支援方法など情報共有し、次の支援につなげている。	・日々の支援の記録については毎日徹底しています。記録を元にセンター内研修等で支援方法を振り返り、これまで以上に支援の検証・改善につなげていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	0	・子どもに合わせてモニタリングの期間を設定し、支援計画を見直し、新たな支援計画を立てている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	0	・児発管と担当者が参加し、より具体的な情報が共有できるようにしたり、支援の方法、課題を検討し、一緒に話し合っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	14	0	・保健師連絡会、(健診)事後フォロー教室、その他、教育訪問等で児童の情報共有を行い支援している。	・適時必要に応じて、関係機関と連携するようにしています。今後も、関係機関と密に連絡を取り合い、必要に応じた支援を引き続き行っていきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	14	0	・保育士、看護師、児発管、保健師、子育て支援課担当者、保護者等が集まり、情報共有や意見交換をし、児童の様子を把握できるように努めた。	・適時必要に応じて、関係機関と連携するようにしています。今後も、関係機関と密に連絡を取り合い、必要に応じた支援を引き続き行っていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	14	0	・今年度は児童発達支援センターには、該当者はいませんが、主治医と医療機関等との連絡体制を整えた。また、センターの利用者以外で、医療的ケアが必要な児童についても、受診に同行し主治医と家族から話を聞けるようにした。	・適時必要に応じて、関係機関と連携するようにしています。今後も、関係機関と密に連絡を取り合い、必要に応じた支援を引き続き行っていきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・互いの場での子どもの様子を見て情報共有をしたり、様子に合わせた支援方法を検討する機会を設けている。 ・課題となっている姿について、共通理解と同じ支援ができるよう、環境や支援方法を共有している。 ・園の大きな行事前にはそれに向けた取り組み法などについても検討した。	各関係機関と情報の共有及び相互理解を図っています。今後も状況に応じてその回数を増やしたり、アフターフォローを実施していきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・児童の情報共有を行い、環境設定、支援方法等を一緒に検討する機会を設けている。 ・子どもの支援について、保護者に了承を得たうえで情報共有している。	各関係機関と情報の共有及び相互理解を測っています。しかし、特定の学校との間でのやりとりで留まっている現状があるため、どの学校でも行えるように周知と連携を徹底していきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	0	・専門機関と連携し研修を行っている。毎月作業療法士が来所し助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	14	・センターでは機会を設けていないが、ほとんどの利用者が地元のこども園や保育園との並行利用をしているため、子ども達は経験することができている。	地域柄、交流する機会を確保できないのが大きな課題です。近隣の保育園の子ども達が近くの公園に来る時に合わせて交流することができないかどうか、今後も検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	14	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	14	0	・児童発達支援センターでの様子を伝えつつ、家庭での様子も聞いてより良い支援方法を保護者と相談しながら考えている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	14	0	・ペアレントプログラムの実施者を育成するために、計画的に研修に参加できるようにした。	・保護者のご意見を踏まえ、ペアレントプログラムに参加するすべての保護者の方が参加しやすいように、開催日時や場所等を検討していきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14	0	項目ごとに目標及び支援内容について保護者と児童発達支援計画作成のための面接をし、共通認識を図り、完成した児童発達支援計画を示して、保護者の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	0	・保護者の悩みに応じて臨床心理士の相談につなげ、悩みの解消に向けた支援を行っている。 ・普段の会話の中から保護者の困り事や心配事を聞き、よりよい支援方法や対策を一緒に考えている。また、必要に応じて母子分離で場を設け相談室に対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14	0	・子どもが不安にならないような時間帯でフレッシュするための時間を設けた。	・今年度は保護者の交流会の回数を増やしましたが、他クラスとの交流の場がもう少し取れるような体制を整えることが課題です。気軽に交流できる場を提供できる方法を検討していきます。

保護者への協

明 責 任 等	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14	0	・保護者からの申し入れがあった場合は、速やかに職員間で共有した上で日程調整し、保護者への対応につなげている。	・今後も保護者からの相談や申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応していくように努力していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	0	・定期的におたよりを発行して活動の内容やねらいを伝えたり、勉強会等を開催する時は掲示と口頭で知らせて、保護者に周知している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	14	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	14		
非 常 時 等 の 対 応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	0	・毎月、様々な状況を想定し利用者とその保護者とともに訓練を実施している。また、職員も避難経路、誘導方法、訓練方法等を定期的に見直し、確認をしている。	・各種マニュアルを策定し、職員や保護者への周知や訓練はしていますが、今後も定期的に見直し、共有・徹底していきたいと思えます。 ・防犯研修を実施し、マニュアルの見直しを行っていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	0	・月に1回、非常災害を想定した訓練を行っている。様々なパターンを想定して、臨機応変に対応できるように工夫している。 ・曜日によって利用者が異なるため、全利用者に周知している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	0	・入所時、アセスメントシートを保護者に記入してもらい、子どもの医療情報を把握している。看護師を中心に把握するように努めている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	0	・ヒヤリハット事例集を作成し、定期的に職員会議で情報共有・分析等を行い、再発防止に努めている。	・今後も定期的な情報共有及び分析を行う機会を確保していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	0	・毎月1回、虐待防止研修を行い、職員の意識を高めている。 ・互いの支援方法について確認しあい、職員全体の虐待防止の意識向上に努めた。	・虐待防止研修に参加できなかった職員に対しての周知方法を見直し、確実に全職員が研修内容を把握できるようにしていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	0	・どのような行為が身体拘束に当たるのか、職員同士で話し合う機会を設けた。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。